

## 履物素材で培った知識を応用し知育玩具製造に活路を開く

株式会社<sup>はじめ</sup>一歩 奈良県御所市

奈良県の地場産業の一つである履物製造業。そこから業種転換し、保育施設などで使用する知育玩具の製造メーカーとして再生を果たしたのが『株式会社<sup>はじめ</sup>一歩』（奈良県御所市）だ。

父親が営む履物底材製造業を受け継いだ同社代表取締役・山名勉氏（59歳）は、1985年に履物底材用のEVA素材（サンダルの底材やバスマットなどによく使われる柔らかくて軽量・無公害のスポンジのような素材）製造工場を設立した。

EVA素材の加工技術が評価され経営は順調だったが、95年の阪神・淡路大震災で取引先が被災し売上が激減。苦境の中、ある知育玩具メーカーから「スポンジでボールを作ってほしい」との依頼を受ける。これまで培った素材の知識が応用できるのではとひらめいた山名社長は、活路を求め知育玩具の世界に飛び込んだ。

知育玩具は幼児が使用するため、安全性を重視した適切な素材選択の知識が必要だが、「履物でEVA素材、金属、プラスチック、ゴムなどの様々な素材の特性や組合せを見極める勉強をしてきたのが活きた」と山名社長は振り返る。



同社の知育玩具を設置した保育室

その後も地道な取組みを続け、98年にはEVA素材製の魚釣りのおもちゃを保育施設中心に1万セット売るヒットを飛ばすなどしたが、いくらアイデアや加工技術を持っていても、下請けのままでは取引相手に主導権を握られ利益率も低い。

そこで02年の法人化後、04年には自社ブランド『一歩（はじめ）』を立ち上げ、元来のアイデアマンの血を活かして自社企画で様々な発想を製品化。現在、同社オリジナルの知育玩具は150種類にも及び、特許も多数取得している。



曲げられる知育ブロック「ホックブロック」が一番人気（左）「どこでもわなげ」は棒の部分も柔らかいEVAスポンジ製で、子供が倒れこんでもケガをしない（右）

社員数11名という同社の規模からすれば非常に多いアイテム数だが、各社員の技術力の高さで多品種少量生産に柔軟に対応。「販売先数が限られる業界なので種類で売上を稼ぐ」（山名社長）という戦略を成功させ、現在、3期連続黒字を達成し年商は1億5千万円にのぼる。

柔軟性と強度を両立させる同社の高い素材技術は、要求水準が厳しい公共設備のプロジェクトなどでも評価され、活躍の場が広がりつつある。

「国内生産をあきらめなければ必ず活路はあると信じてやってきた」。自社のルーツである国内履物製造を今も年商の5%程度は続け、国内生産を頑張る他社の相談にも積極的に乗るよう心掛けているという山名社長。自らをこだわりのある頑固な性格と語る情熱的なその姿に、日本のものづくりに懸ける信念を見た。

（吉村 謙一）



株式会社<sup>はじめ</sup>一歩

〒639-2205 奈良県御所市東辻174-1  
TEL: 0745-63-0091 FAX: 0745-65-0167  
URL: <http://www.hajime1.com/>